様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2013～2016
課題番号：２５６３０２５８

研究課題名（和文）地方長官トゥルニによる18世紀ボルドーの都市整備に関する研究

研究課題名（英文）A Study on Urban Improvement of Bordeaux in the 18th Century by the Intendant De Tourny

研究代表者
土居　義岳（DOI, Yoshitake）

九州大学・芸術工学研究院・教授

研究者番号：００２２７６９６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：フランス18世紀の地方長官ド・トゥルニが、派遣されたボルドー市でおこなった都市整備事業を対象に、現地アーカイブ、西洋史、社会経済史などの先行研究を参考にしつつ、都市史・建築史的な視点から分析した。とくに空間史、様式史、作家史という従来的視点をこえて、ひとつの建設事業・都市整備事業が、経済、雇用、地域社会をにらんだ都市運営的などのような戦略に基づいているかという視点から、総合的に分析した。
　その結果、この都市開発は、経済的には大西洋貿易で得た富の再投資であり、不動産産業を活性化させたこと、商人の貴族化、大商人化、名士化という社会的上昇のモチベーションを与えたこと、などを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：The subject of research is De Tourny, regional secretary in the 18th century, France. The author analyzed the urban development project done in Bordeaux city where he was dispatched, from the viewpoint of urban history and architectural history, while referring to previous research such as local archives, Western history, socio-economic history. Beyond the traditional viewpoint of space history, style history, architect history in particular, a comprehensive analysis was done from the viewpoint about what kind of construction strategy and urban development projects are based on economic, employment, and community-based urban management strategies.
As a result, it was revealed that this urban development was economically re-investment of wealth acquired in Atlantic trade, motivated the real estate industry and the social rise of some merchants to a novelty, a celebrity and to become larger merchants.

研究分野：建築史

キーワード：ボルドー　地方長官　トゥルニ　大西洋貿易　都市整備　商人

１．研究開始当初の背景

西洋史における世界システム論や、国史における近世海運論の流れのなかで、歴史学においては海洋貿易、港市にかんする研究がかなり蓄積されていた。たとえば深沢克己『海港と文明 近世フランスの港町』(2002)は、貿易拠点としての大西洋沿岸都市という視点を提供してくれる。

ところが都市史・建築史領域では、それを背景とする都市形成、都市開発の実例をふまえた研究はほとんどなかった。またそうした都市経営を、地域のガバナンスをどのような立場の人間が、どう役割分担をして実施していったかも、おおよそなシナリをさえ描かれていなかった。

21 世紀のグローバルな都市戦略のなかで、都市経営の視点をどれほど各地域の当事者たちが意識しているか否かで、その都市・地域の発展はまったく違ってくるというのが、ガバナンスの時代における顕著な特徴ある。

フランス 18 世紀については安成英樹『フランス絶対王政とエリート官僚』（1998）が地方長官制度について制度史として体系的に分析し紹介している。地方長官トゥルニの地域開発者としての足跡について、フランスでは 20 世紀前半中盤であるていど紹介されているが、日本には未紹介であり、都市史やヨーロッパでの地域主義という観点から紹介し再注目する価値があると判断する。

さらには高等法院を拠点とする地元有力者たち、商業会議所に集結していた地元有力商人たちについても、都市経営の観点から既往研究を再読しなければならない状況であった。

研究代表者個人としては、科研費基盤（B)『建築家ガブリエルによる古典主義伝播に関する研究』(2006-2009)において、ガブリエルの広場建設を横断的な分析軸としていくつかの地方都市の広場がもつ地方統治的意味を考察し、『プロジェクトとしてのボルドー王像広場への序説』(2009)などとして発表し、港湾広場の新設を、このボルドーの貿易都市化という文脈に位置付けた。そのなかで 18 世紀の都市整備は、行政上の主体である地方長官、経済上の主体である地元有力商人に即して分析すべきであること、それが都市史を研究するための普遍的な方法論になりうること、に気づくにいたった。したがってボルドー研究を建築家を指標として読み解くことは継続しながらも、地方長官や商人に注目することで、行政的、都市経営的な視点からも都市開発を考察することで、ふたつの視点のクロスしたものとして地方都市の都市形成を解明できると思われる。

２．研究の目的

本研究は、18 世紀フランスのギエンヌ州地方長官トゥルニ（Louis-Urbain-Aubert de Tourny, 1695-1760、在任 1743-1757）が州都にして通商拠点ボルドーの川岸地区などの公共空間を整備していった経緯を明らかにする。

とりわけボルドーの人々が１７世紀から、ボルドー市中心部のガロンヌ側岸の細長い地所を「ラ・ファサード」と呼んでいた、この地区の画地分譲事業に注目する。

フランスの 17～18 世紀における地方都市形成プロセスは、比喩的には日本の城下町形成プロセスに相当し、全国的な経済・流通体制の整備のなかで、主要公共建築や公共空間が整備され、地方都市のプロトタイプを生んでいった。こうして形成された地域圏（州）とその拠点は、現代でも地方分権的なヨーロッパにおける構成単位にもなっている。その形成プロセスで最重要と思われる、地方長官の役割、地元商人の貢献、18 世紀の都市整備の戦略と手法などを明らかにすることを本研究の目的とする。

さらに特色としては、西洋都市史において中世都市と 19 世紀以降の近代都市のはざまである絶対王制時代の都市を、経済、政治、地方自治といったオーソドックスな視点から、独自性を指摘する。すなわち（１）閉鎖的であった中世・ルネサンス都市を開放的にした、（２）都市網を整備することで１９世紀と２０世紀の本格的な近代化を準備した、（３）地方分権的ヨーロッパの単位を準備した、ものとして１８世紀都市の意義を明らかにしようとする。

18 世紀フランスのギエンヌ州地方長官トゥルニが指揮したボルドー市整備は、ガロン川沿いの地区、市壁撤去跡地の並木道整備、公園・広場整備に区分されるが、とりわけガロンヌ川沿岸部は資料も多く残されており、行政関係資料は現地の地域圏立・県立・市立の図書館・古文書館にあることは判明しているが、なるだけ建設平面図など図面資料の発見をめざす。経済的な意味での都市経営、そのための都市基盤整備の意図、既存都市空間における当該開発の空間的意味の３つのレイヤーで各事業を分析し、とりまとめる。

３．研究の方法

トゥルニが行った整備について、図面を含むアーカイブを調査することで都市空間的実態を明らかにし、18 世紀の王権からの指示、経済的・地方政治的状況などとの整合性を明らかにし、地方長官としてのミッションとその実現・展開として読み解いてゆく。

まず既往研究をレビューする。都市経営の観点からの経済史は西洋史分野での既往研究に依拠するが、とくに 18 世紀ボルドーの都市的な一般状況については Pariset, *Bordeaux au XVIIIe siècle*, 1968（パリゼ『18 世紀のボルドー』）や、Desgraves, *Bordeaux au XVIIIe siècle*, 1993（デグラヴ『18 世紀のボルドー』）、Butel, *La Vie à Bordeaux au XVIIIe siècle*, 2007（ビュテル『18 世紀ボルドーの生活』）らに詳しい。さらに商業の地域拠点としての歴史を描くための、ボルドー

の関税、商業会議所、地方高等法院などにかんする学術的なモノグラフもこの 10 年でいくつか刊行されており、現地においても都市開発的な視点の展開があることが示唆できる。

古典主義時代のボルドー都市史・建築史については Courteault, *Bordeaux Cité Classique*, Paris, 1932（クールトー『古典的都市ボルドー』）は閉ざされた中世都市から開放的な近代都市へというパラダイムを提出した定本だが、いささか古く、本研究にとってはデータ不足である。いっぽう Butel, *Les négociants bordelais XVIIIe siècle*, 1996（ビュテル『18 世紀のボルドー卸商人』）はこの商業都市の産業の実態を示し、背景として貴重である。

トゥルニは数多い地方長官のなかでも成功者のひとりであり、モノグラフもいくつかあり、Lheritier, *Tourny 1695-1760*, 1920（レリティエ『トゥルニ 1695 年～1760 年』）は２巻からなる浩瀚な伝記であり、D'Welles, *Intendant Tourny*, 1963（ドヴェル『地方長官トゥルニ』）はギエンヌ時代に的を絞った伝記である。地方長官による事業を紹介したものとして Damas, *Façades de Tourny*（ダマス『トゥルニのファサード』）が特筆され、これは本研究 25 年度の対象であるガロンヌ川沿岸開発を紹介したものだが、ダマスは都市・建築の専門家ではなく、内容は事例紹介的にとどまり、空間的な解読はできていないので、あらたに都市史的・建築史的な観点から再解釈し再スタディする必要がある。

アーカイブについては、18 世紀の土地売買資料が残されているので、そこから購買者の社会的属性をわりだして、事業がいかに成立していたかを当時の社会的状況から判断する。

４．研究成果

ボルドー市のガロンヌ川沿岸部・通称「ラ・ファサード」地区について、既往研究、現地アーカイブの調査研究を活用することで、地方長官トゥルニの地域社会における立場と 18 世紀行政機構のなかでの位置づけが判明した。現地アーカイブにおける調査から、「ラ・ファサード」画地分譲における地割り、入札過程、落札者氏名についての情報を得ることができ、そこから落札者は大多数が商人であり、さらに大口落札者は大西洋貿易で冨を築いたいわゆる卸商人であること、などをつきとめた。

地方長官トゥルニは、小さな領地を所有する貴族であり、若いときから領地経営者としての自覚があったことが判明した。さらにパリ高等法院での研修、会計院などでの官職の経験から、行政職の経験を蓄積するという、18 世紀における典型的なエリート官僚であったことを明らかにした。

トゥルニは政府から指名され、ギエンヌ徴税区における地方長官としてボルドーに派遣された。ボルドー社会にあっては、国を代表する「国務諮問評議会 Conseil d'Etat」、「国務卿 secrétaire d'Etat」、「王室主席建築家」、「地方総督 gouverneur」、「地方総司令官 commandant en chef de la province」などと、地域を代表する「ボルドー大司教」、「ジュラド Jurade（市参事会）」と「ジュラ Jurat（参事会員）」たち、「高等法院 Parlement」などという、中央勢力と地方勢力の均衡をはかりながら、行政を管轄し、その枠のなかで都市を開発する立場であることを解明した。

「ラ・ファサード」地区画地分譲事業にかんするアーカイブから、その平面図、土地購買者の氏名や職業を割り出した。この入札は 1751 年 3 月 20 日から始められ、54 年にはほぼ全てが売却された。研究代表者は、市参事会員の署名がある入札の議事録、およびその清書（地方長官府（年）・市参事会（年））を入手し、リスト化した。そこには落札日、名前、区画の面積、地価、落札額が明記されている。土地購入者の職業としては、商人が大多数であることをつき止めた。すなわち中央政府から派遣された地方長官が指導するプロジェクトであったが、それを支えたのは地域商業界であるという構図を明らかにした。

作成した購入者リストのなかから、ピエール・ペレ（Pierre Pellet）、ジャン・ペレ（Jean Pellet）のペレ兄弟という大商人の存在を発見した。

彼らはこの入札においても数口を同時に購入する、大口落札者であった。彼らはルイ・バルゲリ（Louis Balguerie）とともに、ボルドーの大商人（Négociant）、すなわち新興の商業エリートであった。

ジャン・ペレについては地域史研究者による浩瀚な研究成果があることを発見し、そこから具体的な一商人の商業活動の実例を観察できた。ペレ家はもともと商人の一家であり、プロテスタントであったが、宗教的迫害の少ないボルドーに移住してきた。ジャン・ペレは、まず大西洋を渡りサント・ドマングに移住して、そこでプランテーション経営をおこない、冨を成したが、やがてボルドーに戻りそのプランテーション事業を足場にして砂糖輸入業のための会社を立ち上げる。それによっても財をなしたのち、1733 年からは船舶艤装業者として業務を展開し、さらに財をなしていった。1741 年にはタルモン・シュ・ジロンド（Talmont-sur-Gironde）の伯爵になり、1746 年にはアジュネ地方の領主権を 125,000 リーヴルで買い取った。息子らに相続しようとするときの資産総額は、1,991,823 リーヴルであり、資産総額は、現在の貨幣価値でいえば約 70 億 8480 万円と試算される。

このように不動産業に転身しつつ、官職・爵位をも購入していった時期、まさにボルドー市のラ・ファサード地区画地分譲に入札し

たのであり、ペレの個人的な社会的上昇と、ボルドー市の商業都市としての開発は、まさに表裏一体であった。彼は地中海貿易、船舶業、不動産業とよりよい利益をもとめて転職していったが、富を増やしつつ、官職を購入し、栄華をきわめたが、彼の不動産投資は、市の土地整備を支えた投資でもあったことがわかる。
これまで建築史、都市史分野において、都市開発事業は、空間、建築様式、建築家の建築思想の結果としてのみ考察されてきた。ゆえに経済の循環、都市経営の方針、という観点からの分析はほとんどなかった。しかし本研究により、18 世紀までの現行都市計画制度が当てはまらない時期においても、都市の経済的発展を目指す地方官吏の戦略という立場と、従来型研究のクロスする立場から、都市整備のありようを具体的に解明できたし、都市形成の原動力としての商人の社会的上昇エネルギーも指摘できたと思われる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計０件）

〔学会発表〕（計５件）
地方長官トゥルニの経歴とボルドーでの立場 ： ギエンヌ管区地方長官トゥルニによる都市整備に関する研究 1，土居義岳，角玲緒那，2013 年度日本建築学会大会(北海道)学術講演会・建築デザイン発表会，同建築歴史・意匠部門梗概集 2013，2013-08，pp.777-778

地方長官トゥルニによるボルドーの「ラ・ファサード」整備 ： ギエンヌ管区地方長官トゥルニによる都市整備に関する研究 2，角玲緒那，土居義岳，2013 年度日本建築学会大会(北海道)学術講演会・建築デザイン発表会，同建築歴史・意匠部門梗概集 2013，2013-08，pp.779-780

地方長官トゥルニによるボルドーの都市整備の落札と商人 ： ギエンヌ管区地方長官トゥルニによる都市整備に関する研究 3，角玲緒那，土居義岳，2014 年度日本建築学会大会(近畿)学術講演会・建築デザイン発表会，同建築歴史・意匠部門梗概集 2014，2014-09，pp.823-824

地方長官トゥルニによる「ラ・ファサード」整備の出資者の職業について ： ギエンヌ管区地方長官トゥルニによる都市整備に関する研究 4， 角玲緒那，土居義岳，2015 年度日本建築学会大会学術講演会・建築デザイン発表会，同建築歴史・意匠部門梗概集 2015，2015-09，pp.161-162

18 世紀ボルドーのファサード整備と「事業家の心性」：ギエンヌ管区地方長官トゥルニによる都市整備に関する研究 5，角玲緒那，土居義岳，2016 年度日本建築学会大会学術講演会・建築デザイン発表会，同建築歴史・意匠部門梗概集 2016，2016-08，pp.737-738

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者
土居義岳　（DOI，Yoshitake）
九州大学・大学院芸術工学研究院・教授
研究者番号：00227696

研究分担者；なし